



TITLE:

観測部月報欄

AUTHOR(S):

---

CITATION:

観測部月報欄. 天界 1935, 15(171): 342-346

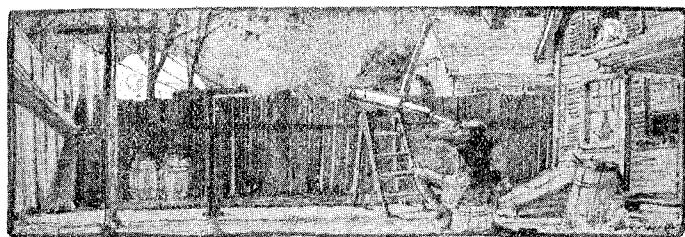
ISSUE DATE:

1935-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167050>

RIGHT:

觀  
測  
部月  
報  
欄

## 黃道光課月報

(1935年4月分の報告)

### 觀測者及び觀測數 (宵西天)

氏 名	觀 測 地	觀 測 數	觀測番號
寺 町 忠 行	愛知縣豐山村	2	50 —51
宇 野 良 雄	京 都 市 紫 野	12	25a—35
笹 部 榮 一	大阪府池田町	1	41 —
福 井 實 信	大阪府池田町	1	31 —
淺野英之助	山口縣長府町	1	54 —

本月の觀測も總て宵西天である。金星は -3.4 等燦爛として低空を照してゐる。晴れてもどんより霞みがちな此頃、銀河も漸く頂點を侵しコンディションは次第に悪くなつてゆく。上旬の明るさ離角  $40^\circ$  の邊で一角獸座の銀河の3倍~2倍位、下旬は離角  $50^\circ$  の邊となり同銀河の1倍位と見られてゐる。中心線は大體僅か北傾してゐる。銀河を越えて天頂附近の獅子座に至る光帯が見られてゐる。

對日照の觀測が宇野君によつて1回 (No. 1)行はれてゐる。

×                      ×                      ×

◎待望久しき朝鮮半島に、漸くにして出現した熱心なる新觀測者を、満腔の悦をもつて御紹介申す。

朝鮮忠清北道清州郡米院面米院里                      權 泰 嬭 君

既に5月3回屋根上よりのスケツチが送られてゐる。尙同君は近々太陽黑點觀測をも開始される由。

朝鮮同胞の觀測は君を以つて嚆矢とすべく、しかも本課よりであることを我々は誇りたい。

(幹 事)

## 變光星課報告 (28)

倉敷 小山 秋雄

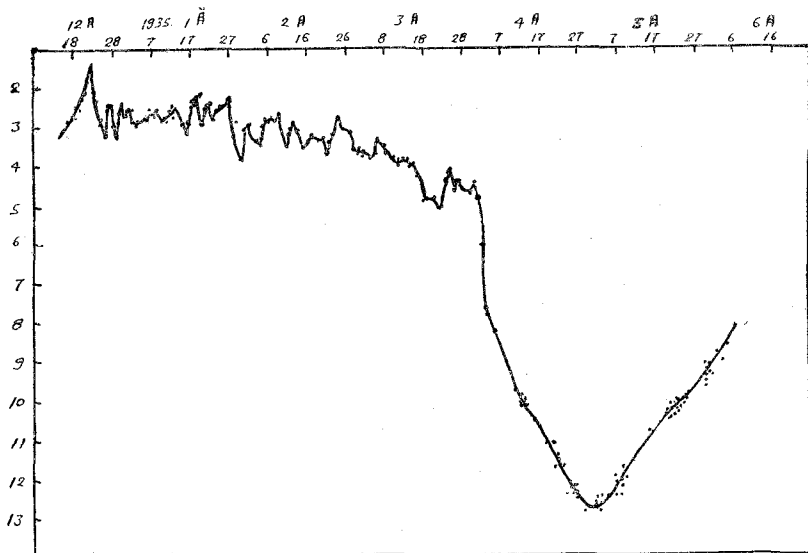
## 5月中の觀測報告數

觀測者	今津 績	木邊成磨	加藤孝一	香掛七二	高井博典	笹部榮一	森久保茂	伊達英太郎	佃 泰三	鈴木一男	小澤喜一	井澤正男	松本武男	西川英雄	西井宗一	崔部 進	安武研二	合計
星數	17	21	6	15	6	3	0	3	4	12	6	0	0	8	1	10	4	59
觀測數	80	171	74	91	13	8	0	10	30	53	41	0	0	22	9	48	11	662

●福岡市の安武研二氏が新に報告された。上記の外、木邊氏はふたご座 $\epsilon$ 星、加藤氏はアルゴル、西井氏はふたご座 $\delta$ 星、こと座 $\beta$ 星の觀測を夫々整理して報告された。●報告の詳細は課報及花山ブレンを見られたい。

木下謙氏の逝去 同氏が病氣のため本年二月以來觀測を中止された事は、此の欄にて既に報じたが、5月20日19時急性腸カタルに急性腦膜炎を併發され亡くなられた。享年二十二歳。まことに愛惜の念に堪へない。御病身である事は兼々承つてゐたが、その正確な觀測と有力な器械のため特に再起を期待する事切なるものがあつた。(小山)(第360頁の同氏の寫眞参照)

## ヘルクレス座新星



ヘルクレス座新星の近況 元來此の新星は活動力の にぶい星らしいのにも拘らず4月上旬よりまたたく間に13等星に下つたが再び回復し6月上旬には八等になつた。此の光度曲線をながめると、食現象を思出させるが、勿論複雑な物理現象を伴つてゐるであらうが、食現象も一役買つて出てゐるのかも知れぬ。此の號の出來上る頃までには五等星にまで上つてゐるかと思はれるが果してどうか。尙此の光度曲線は殆んど全部會員の觀測によつて引かれたものである。

## 遊星面課報告 (1935年5月)

概況 好天候，加ふるに seeing も比較的良好，火木兩星の好位置で多數の觀測報告を受けた。合計(169)

	伊達	沓掛	荒木健	前田	窪部	窪部 夫人	西川	荒木九	渡邊	京星會	花山 合同	木邊	合	計
金星									3					3
火星	13	5	5	38	1	3	1	13	32	13	1	12		137
木星	7		1	16					5			1		29

金星 渡邊氏のスケッチには可なり描かれて居る。7月の好機に日没前後に觀測を希望する。當課では木邊幹事が6月20日—7月末の間寫眞を連續に行ふ事になった。多分日没後30分位に撮影する筈である。この期間は特に眼視との協同觀測を望む。猶他の方の寫眞の撮影も期待する。露出は「50にした大きさに引伸して、約  $\frac{1}{10}$  秒でよいと思はれる。(10 cm で視直徑30秒角の時 1 mm 弱の像に相當する)

火星 幾分小さくなつたが4月よりも seeing が良好であつたため、成績はよかつた。最も注意を引いたのは、アシダリウムの東邊の白斑，經度  $60^\circ$  中心に擴つた極冠の周囲の黒い模様、之れが延びてアシダリウムの北端に迫つて居る、一見鋭い切れ目の如く見受けられた事。マガリヂファ 1 カラカシウスまで進み  $100^\circ$  以上に走る オクサス運河等で、期待に拘らず見えなかつたのは、アリンの爪(二つに分れて)エリシウムの明瞭な形等であつた。7月中旬に全部今季の觀測を整理して、多分9月の本欄に發表出来ると思ふ。殘部のスケッチがあれば7月上旬中に全部御送付を願ふ。

木星 火星に次いで人氣がある。前田、伊達、渡邊三氏のスケッチによれば昨年度より南北の太い暗帶の切れ目が強く、一部では各二本に分れて居る様にさへ見受ける。特に大赤斑附近がこの傾向が甚だしい。又大赤斑は昨年同様に見立たず淡い灰色である。猶ほ寫眞が木邊幹事により10枚位撮影されたが、眼視の詳しさには及ばない。然し帶が所によつては四本まで撮影されて居り明暗の度合の永年の變化を見るには役立つ仕事だと思はれる。これによれば極は幾分南の方が暗く全表面の中、南赤道暗帶の南にある帶が最も明るい。(幹事)



## 太陽課 黑點相對數報告 (1935年五月)

觀測者(觀測地)	松本	波邊	日松	改野	岡神	荏部	伊達	佐々	前田	木邊	尾崎	小澤	沓掛	清水	森久	淺井	水谷	稻垣	進藤	千葉	下保
鏡徑耗	58	41	98	150	25	75	80	110	70	75	30	32	102	100	35	58	38	75	48	50	58
倍率	40	55	69	68	50	77	70	92	40	60	50	55	75	73	50	60	50	30	44	50	44
1	23	•	24	24		23	病	24	11	23	23	23	23	24	22	12	22	11		雨	雨
2	曇	•	35	25		25	25	曇	24	26	23	23	24	24	22	11	24	25		11	11
3	52	•	欠	欠		66	54	51	49	71	52	33	39	曇	45	36	35	25		雲	32
4	61	•	31	欠		46	45	欠	28	68	42	曇	曇	曇	26	11	曇	欠		曇	29
5	48	49	旅	67		68	54	71	50	83	53	56	曇	曇	57	62	42	51		41	61
6	56	42	旅	65		63	65	欠	46	75	曇	44	77	曇	51	63	57	50		40	69
7	58	52	37	欠		63	85	51	44	71	曇	28	86	曇	63	曇	曇	38		45	42
8	67	69	旅	76	未	81	87	46	49	87	28	32	71	曇	63	44	30	33	未	29	30
9	78	49	旅	欠		49	63	23	39	82	31	33	41	曇	48	33	欠	曇		31	30
10	64	55	旅	31		29	52	29	31	71	30	27	曇	曇	36	曇	曇	曇		32	31
11	59	雨	旅	曇		42	曇	欠	18	欠	曇	20	曇	曇	曇	曇	曇	曇		17	16
12	41	曇	雨	曇		59	曇	曇	44	欠	雨	14	曇	曇	曇	曇	曇	曇		曇	27
13	61	曇	雨	曇		雲	雨	曇	曇	欠	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇		曇	26
14	41	曇	雨	曇		雲	曇	曇	曇	欠	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇		曇	24
15	16	曇	35	23	着	45	61	欠	36	58	23	15	曇	曇	45	23	雨	着		12	11
16	45	36	36	23		61	22	欠	33	11	雨	13	曇	曇	22	12	雨	曇		0	0
17	22	曇	曇	13		曇	0	欠	曇	欠	0	0	曇	曇	曇	雨	欠	0		0	0
18	11	欠	曇	曇		0	0	欠	0	0	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	0		0	0
19	0	0	0	0		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	雨	0		0	0
20	0	0	0	0		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0		0	0
21	0	0	0	欠		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0		0	0
22	雨	0	0	欠		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
23	曇	0	欠	欠		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
24	曇	0	欠	27		29	0	13	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	11		13	0
25	?	0	0	0		13	12	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	忙	0		0	0
26	曇	曇	曇	0		0	曇	曇	0	0	0	0	曇	曇	0	欠	0	0		0	0
27	11	曇	曇	曇		曇	曇	曇	11	曇	11	曇	曇	曇	11	12	曇	11		雨	雨
28	11	曇	曇	雨		曇	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇		曇	11
29	22	曇	曇	11		22	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	雨		曇	34
30	36	49	35	41		43	42	38	43	43	39	41	42	43	58	43	38	欠		欠	39
31	41	48	38	45		45	52	45													雨
平均	39	31	20	29		36	33	36	25	41	17	18	35	30	28	21	22	19		20	20
日数	24	17	18	17		27	21	13	27	24	23	26	20	19	24	18	17	21		19	28

●清水氏の寫眞觀測は1, 2, 3, 5, 7, 8, 10, 16, 17, 27, 31の11ヶ日。

●多忙の爲しばらく觀測を休んで居られた波邊氏が再び觀測を開始され、更に名古屋の小澤氏が新に報告を寄せられる事になった。觀測者がぐんぐん増えてゆくのは何よりも愉快である。